

セリ科 ヤブジラミ属

オヤブジラミ (雄藪虱)

Torilis scabra (Thunb.) DC.

自生環境

野原、水辺、荒地 など

原産地

日本在来

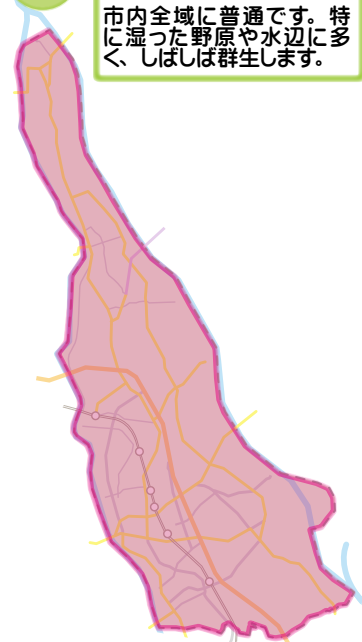
生育を脅かす要因

(今のところ特になし)

市内全域に普通で、今のところ絶滅の心配はありません。しかし目の敵にしすぎるのは考えもの。地域に咲く野の花として、やさしく見守る気持ちを大切にしたいところです。

市内の分布状況

市内全域に普通です。特に湿った野原や水辺に多く、しばしば群生します。



特徴

- ☆ 湿った野原や荒地などに多く生える越年草です。秋に発芽したあと、ロゼットの状態で越冬し、気温の上昇とともに一気に成長して花を咲かせます。冬場は寒さでしばしば紅葉します。
- ☆ 花は早ければ4月頃から咲きはじめ、5月に最盛期となります。小さな花が多数集まって、花傘を広げたような姿になります。花びらの大きさがまちまちで、外側のものほど大きくなる傾向があります。花色は白ですが、しばしば赤みがかかります。
- ☆ 果実は細長い形で剛毛が多く生えています。剛毛は赤みがかり、先がぐるんとかぎ爪状になっています。かぎ爪で動物や洋服にくっついて「ひつつき虫」となります。完熟すると黒くなり、真ん中から2つに分かれます。

虱のようにとりつく？

白い清楚な花を咲かせるオヤブジラミですが、ヤブジラミとは藪の虱(シラミ)という意味があり、何とも気の毒な名前といえます。これは果実からきています。果実は先端がかぎ爪状になった剛毛にびっしりと覆われ、洋服や動物の体によくくっつきます。この姿がまるで虱のようで、草やぶに多いのでこんな名前になってしまったのです。ちなみに名前の頭のオは雄の意味です。



外側の花びらが大きくなる

花傘を広げたように咲く



果実はかぎ爪状の剛毛がびっしり生える



果実は完熟すると2つに分かれる



冬越しの様子。葉はしばしば赤くなる

まるでニンジンのように細かい葉をつける



わびちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

